

第 10 回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会 議事要旨

日時：平成 26 年 12 月 8 日（月） 午前 10 時 00 分～11 時 40 分

場所：S A Y A K A ホール 大会議室 L

出席：＜委員＞

今西委員長、新坊副委員長、安藤委員、山田委員、山村委員、花田委員、片本委員、菊屋委員、青森委員、田畑委員、柳委員、車谷委員、松島委員、竹口委員

＜事務局＞

橋上教育部長、谷こども育成担当部長、田中教育部理事、田中こども育成室長、中川学校教育グループ課長、能勢教育総務グループ課長、石川給食グループ課長、西野歴史文化グループ課長、寺本社会教育・スポーツ振興グループ課長、松本こども育成室次長、中村主任、コンサルタント

- 次第
- 1．開会
 - 2．審議事項
 - ・大阪狭山市教育振興基本計画（素案）について
 - 3．その他
 - ・今後のスケジュール【次回の会議予定について】
 - 4．閉会

1．開会

事務局より欠席者確認、資料確認

2．審議事項

委員長： 前回は基本方針 2・3 の修正、基本方針 4・5 の主な取組について審議をいただいた。今日は、これまでの審議を踏まえて、素案全体の確認をしたい。今日の会議が最後になる予定なので、意見を出し切っていただきたい。前回の意見を反映した修正案の説明を、事務局より願う。

事務局： 前回の策定委員会の意見を踏まえて修正した点について説明。

委員長： 修正点の説明があったが、これについてご意見を頂きたい。

46 ページは、かなり前回の意見を反映していただいている。50～51 ページで、連携の枠組みづくりが必要ということで、教育コミュニティづくりを強く出されている。また、用語は、国、都道府県、町村で違っていて、市民の方には難しく、混乱することがあるので、用語解説を付けていただいている。

委員：「教育コミュニティ」という言葉自体が分からない。

事務局：今回、初めて出した言葉である。49 ページの「現状と課題」で、学校と保護者、地域社会との連携を柱とした教育コミュニティを形成していく必要があるという部分や、50 ページの「施策の方向性」で、「みんなで子どもを育む教育コミュニティづくりに取り組みます」。また、51 ページの「学校教育活動と連携した学校支援地域本部活動の取組をしていきたい」というところで使っている。

委員：組織という固いものではなく、みんなでやろうという、ゆるやかなつながりと理解したらいいのか。

事務局：51 ページの「」についていえば、52 ページに「学校評議員制度」、「学校運営協議会制度」、「学校支援地域本部」が、国の支援する制度の枠組みとして載っているが、教育コミュニティづくりを推進する仕組みとして社会全体で支援していくということである。

委員：がちがちの組織ではなく、地域で見守っていこうという雰囲気のことと理解してよろしいか。

事務局：全体的に「教育コミュニティ」をもって支援していこうということである。

委員長：大阪狭山市の教育や計画、全体のグランドデザイン的な言葉として捉えたらいいと思う。

委員：どういうものという考えが、おのおのばらばらではいけないし、この場に出ているメンバーだけで理解するものではなく、広く狭山の市民に伝わる言葉が必要だと思う。

委員：注釈も難しいと思う。

- 委員長 : 具体的なものを図で示してはどうか。
- 委員 : 市民は理解できない部分があると思う。
- 委員長 : たくさんの事業名が出されているので、グランドデザインと受け止めた。
- 委員 : P T A、地域協議会、青少年健全育成協議会、防犯ステーション、見守り活動など、数年前からいろいろな組織が立ち上がって、どの組織も、学校と教育を支援してくれる包括的なものだと思う。
こういう組織にこのように学校を支援してもらっているという図で提示して、これが教育コミュニティだとすると分かりやすいと思う。
- 委員 : いろいろな団体・組織が学校を支援しようとしているが、ほとんどの団体が同じ顔ぶれである。一般の市民は、学校を支援するという雰囲気はできていないので、文書や計画案で出すよりも、実際に市民がどれくらい理解できるかだと思う。
基本方針 2 の重点目標 1、41 ページの「地域に開かれた学校づくりの推進」の「学校協議会や学校づくり応援事業等で外部の評価を得ながら学校づくりを行います」が割愛されているが、後の文章とのつながりがあるので残していただきたい。地域の方に学校を開放することは、学校を支援しなければという雰囲気作りの第一段階だと思う。
- 委員長 : 41 ページの「学校協議会や学校づくり応援事業等で外部の評価を得ながら学校づくりを行います」が割愛されていることについて、事務局から説明があるか。
- 事務局 : については、学校公開や情報公開に特化した内容にさせていただいて、「学校協議会や学校づくり応援事業等で外部の評価を得ながら学校づくりを行います」は、39 ページの「主な取組」の「調査研究や教材開発を推進する体制づくり」に移動する形で修正した。
- 委員 : 「地域に開かれた学校づくり」なので、「学校の体制づくり」ではなくて、「地域に開かれた」が非常に重要だと思う。移動された根拠を教えてください。
- 事務局 : いろいろ考え方があると思うが、外部の評価を得て、教職員の資質向上

や調査研究に活かすほうが適切と考えた。40 ページの基本方針の 1 番大きなタイトルが「安全で快適な教育環境を整備します」なので、学校評価を受けたことを学校づくりに活かす方向に持っていったほうが、それを活かした学校づくりという理解が得られやすいと考え、移動した。

委員 : 分かった。学校の管理職は、地域と一緒にやらなければならないと思っているが、一般の先生は我々が入ると敬遠する。先生方の理解を広げることも重要である。

委員 : 46 ページの の成人教育は、人間としてもう一度教育をし直す成人教育なのか、大人として人生を楽しむための成人教育なのかを分かりやすく示してほしい。ここに書かれている成人教育と一般的な成人教育に違いはあるのか。

委員長 : この文章は、委員の理解でいいと思うが、本来の成人教育はノンフォーマルエデュケーションという形の、はっきりしない教育と捉えていて、日本では社会教育と家庭教育のことである。「成人教育の充実による家庭の教育力の向上」は、家庭教育についてうたっているので間違っていない。成人教育という大きな枠組みで捉えた場合、矮小化しすぎているという指摘は当たっているが、親学より成人教育のほうがいいと思う。家庭教育は成人教育の 1 つであり、生涯学習は成人教育であるが、概念が大きくなってしまうので、家庭で親や社会人の自覚を持って育てるという意味で捉えている。

委員 : 「成人教育」という言葉になじみがなく、子育てができていない家庭の大人に対して、もう一度子育てをきちんとしようということを分かってもらうための、学校的ながっちり固まった教育だと受け取った。もっと柔らかく、伝えたい方たちに伝わりやすい言葉にできないかという部分で引っ掛かっている。

委員 : 「子育ての責務や親としての役割、子どもとの関わり方、地域の大人としてのあり方などを学ぶ成人教育を充実し…」のほうが、理解しやすいと思う。

委員 : 「家庭の教育力向上のための成人教育」のほうがいいと思う。

委員長 : 「家庭の教育力向上のための成人教育の充実」として、文脈の最後に「成

人教育を充実します」という形でよろしいか。ほか、いかがか。

委員：28 ページ、「重点目標 2 社会の変化に即した新たな学びの展開」の「学習機会の充実」で二学期制のことが書かれているが、12 月の市議会で、市長から、いきなり三学期制に変更するという発表があって、昨日、保護者に、三学期制に変更するという教育委員会からの文書が配られた。いきなり三学期制に変わった過程を教えていただきたい。

事務局：二学期制を 10 年間実施してきて、校長会・策定委員会で検討した。市長が言われた 2 つについて説明する。
1 つは、大阪府の公立の入試制度に伴うテストや評価のスケジュールが三学期制に基づいており、二学期制では調整が必要となる。また、中学のクラブ活動の対外試合や地区総体等のスケジュールもずれているなど、さらに調整が増えるので三学期制のほうがいいのではないかということ。小中一貫の教育ということで、三学期制に変えていこうという流れもある。二学期制でやってきた成果として、授業時数を確保する意識が高まったこと、行事を見直したこと、授業を公開して外部評価を受けたことなど、先生の教育課程の意識が高まってきたので、この成果を活かしていきたい。
このような議論と皆さんの意見を照らして、教育委員会に承認を頂いて、市長が表明したという経緯である。
中学校は来年度から、小学校は急な変更ができないので、翌年から行う予定である。

委員：ホームページや書類を見ていないが、一般市民にも広報等で公表されるのか。

事務局：昨日、狭山中校区の保護者に手紙を配っており、一般市民には何かの方法でさせていただく。

委員長：まず、保護者、子どもたちに伝えた形である。

委員：こういう場合、保護者に意見を聞く機会はないのか。学校は、決まってから保護者に話をして、保護者がざわざわし始めると集会を開いて説明をするというスタンスである。保護者や子どもたちがメインのはずなのに、教育委員会や学校からのトップダウンで、従えという意味なのか、親の意見を聞いても変わらないということなのか。二学期制から三学期

制になるメリット、デメリットの説明も、三学期制にする過程の話もなく、来年から三学期制にすることだけでは、PTAとしては違和感があるし、そこを埋める努力をしないと溝が深まると思う。

委員長：府の入試制度の改変という外部要因がある中で、教育員会も苦渋の決断をしたと思う。

委員：三学期制に決まったということだけではなく、二学期制がどうだったか、どういう経緯で三学期制に決まったかを伝えてほしい。また、保護者だけではなく、来年度中学生になる方に対しても、広報やホームページなどで知らせていただきたいと思う。

委員長：政策決定過程に住民意識を把握する必要があるのではないかと、また行政の説明責任の指摘があった。原則的な大きな問題なので、ご意見があれば頂きたい。

委員：手紙は、保護者だけでなく、見守り隊など、地区の方にも配るのか。

事務局：中学校は、1月にテストをすると急きょ決まり、府から下りてきている。大阪狭山市が他市と違うことをしていて調整が必要になることが、もっと学校現場に混乱を招くのではないかとということと、説明不足の面もあるが、1月から全てが動くので、特に受験生を抱えている保護者に安心していただくために、とにかく先にお配りした。地域の方や今後入学される方には、丁寧に報告しなければいけないと思う。

委員：8～9年前、二学期制で受験させるのに不安があった。大阪府下の周りの学校とはペースが違うし、混乱がある。そういうときに、「今の時点では見込みだけでもこういう成績」と言われても、見込みというのがぴんとこなかったし、このデータでどう決めたらいいのか悩んでいるうちに決めなくてはならず、訳が分からないうちに受験が終わったというイメージだった。保護者の意見を全く聞いていないわけではないと思うが、いろいろな立場の方がいるので、早く伝えていただきたいと思う。

委員：昨日、保護者に配られた文書は、メリットやデメリット、二学期制のことも書かれていて、地域の意見も把握したと解釈できる形でうまくまとめられていたと思う。

- 委員：手紙を読んだら納得できる文章ということか。
- 委員：各団体の代表が出ているので、それが市民の意見とを感じる文章だった。
- 委員：子どもがいますと、二学期制か三学期制かは大きなことなので気になる。
- 事務局：おっしゃるとおり、転校してきた方から「二学期制は三学期分の勉強は教えてもらえないのか」と言われたことがある。二学期制は、それくらい知られていない。いろいろな意見を聞かせていただいて、今回のことは、市民に丁寧に説明をしなければいけないと思った。
- 委員長：他になれば、計画全体について、事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局：計画素案全体の修正した部分について説明。
- 委員長：事務局の説明について、意見をお願いしたい。
- 委員：計画の形はできたが、周知はどうするのか。
- 事務局：今日の審議会以降、集約して修正したものを、パブリックコメントの後、教育委員会にかけて承認を頂いて、3月に概要版を全戸ではないが、配布する予定である。
- 委員：全戸配布は考えていないということか。
- 事務局：はい。
- 委員長：全文と概要版があり、インターネット等で見られる。また、市の広報に、基本計画ができたことが載るという流れである。
- 委員：策定から5年をめどに見直すということだが、我々が5年後にもう一度集まるということか。
- 事務局：皆さんは、今回の教育振興基本計画の策定にあたる委員である。次回は、また、委員を選び直す形となる。
- 委員：誰が見直しをやるのか分からないので、市の教育委員会が見直しをやる

という文言が必要だと思う。

事務局 : 基本的には、今後 5 年間の計画であるが、社会状況の変化等に応じて見直しを行う。主語は、教育委員会だけではなく、皆さんの意見を吸収して作っているので、このような表現にしている。

委員 : どこで見直しのボタンを押すのか曖昧に感じる。

委員長 : 市が行政として、責任を持ってやると述べている。

委員 : 見直さなければいけないかどうか、行政は実績を見た上で議論をして、5 年で見直すのであれば、その前からきちんと取りかかってやってくれと思う。

委員長 : 中間評価されるので、市民は行政がきちんとやっているかの見張り役である。

委員 : パブリックコメントを行った後に、その意見を吸収するかどうかを判断するのは誰か。また、その場にこの委員は集まるのか。

事務局 : 今月中に取りまとめて、教育委員会にパブリックコメントの素案を諮り、承認を得たら、1 月中旬からパブリックコメントを行う。その後、事務局で意見の集約、分類後、教育委員会にかけて、3 月 31 日までに計画を策定する予定である。今日頂いた意見をもとに修正を行い、委員長一任で見ていただく形となり、策定委員会は今日が最後となる。

委員 : 2 年近くこの計画に費やしてきたので、最後は自宅配布ではなく、この場でやっていただきたい。

委員 : 最終的には教育委員会が責任を持って出されるので、それに対してどうこういうところはないと思う。

委員 : 意見交換ではなく、素案のままで、最終形が見られないのはさみしいと思う。

委員 : これから、パブコメや委員会での審議等に向けて、いろいろな話が出てくると思うが、委員長に一任していかざるを得ないと思うので、皆さん

に了解を頂いてはいかが。

委員：この計画は、教育委員会名で出るのか。

事務局：教育委員会として出す。

委員：来年の選挙で市長が変わった場合、今まで教育委員会で計画を立てた内容が大きく変わったり、廃案になったりする可能性もあるので、市民としてよく見ていかなければいけないと思う。

事務局：4月からの教育委員会制度の改正に伴い、市長と教育委員の会議で教育に関する大綱を作ることになっているが、大綱を決めるのは市長である。今現在の教育振興基本計画に対して市長が反対した場合、新たな大綱として作り直す可能性はある。市長と意見が異なった場合でも教育委員会では意見を付けることはできる。大綱には市長の意見が強く反映される。実施期間が5年より短くなることはある。

委員長：教育委員会制度自体が変わるので、先のことは全く予測がつかない。私たちは、教育委員会にまとめたものを提出するということでご理解いただきたい。

委員：市民が集まってこれだけ話し合ったことを無視しないでほしい。

委員：総合型地域スポーツクラブも書いていただいたので、頑張らなければいけないと思った。各団体の力を合わせて作ったので、これからもそれぞれ頑張っていけたらいいと思う。

委員長：他になれば、各委員の思いをお聞きしたい。

委員：大阪狭山市全体で、子どもたちを中心に、子どもから高齢者までのコミュニティをつくっていききたい。策定委員会に参加して、大阪狭山市や学校のことなど、勉強させていただいて、ありがとうございました。

委員：勉強させていただいて、ありがとうございました。円卓会議の代表者をしているが、S A Y A K Aホールでの子ども対象の講演会に、370人の親子連れの参加があり、地域の子育て世代が何かを求めているという実感が湧いた。地域の委員として子育て支援を通して、素晴らしい狭山市を

築いていきたいと思う。教育コミュニティにも参画したいので、よろしく願います。

委員 : 賛成、反対の意見をぶつけて、お互いのいいところを取り入れて、いい意見にしたいという考えで、批判的な意見を述べてきた。
地元の餅つきに参加したとき、おじいちゃんも、おばあちゃんも、子どもたちもみんな笑顔だった。この会議に参画して、苦労はあっても、この笑顔が増えればいいと思った。2年間、ありがとうございました。

委員 : 計画をうまく進めるには、市民にいかに関心してもらえるかである。地域の将来を考えれば、横のつながりが大事で、みんなが自覚しなければいけない。そのためには、子どものときからそういう教育をしないといけないと思う。これからもこういう考えで活動をしていきたい。

委員 : 基本計画が出来上がるが、教職員が内容を知らないと思うので、関わりのある部分や方向性、具体的なことが書かれている部分は積極的に情報提供して、同じ方向を向いてやっていただきたい。二学期制に変わるときの説明会で、教員の価値観を変えたいという説明があったが、以前の教職員に比べると授業時間に非常に興味を持つようになったと思う。

委員 : この会議で、学校を応援してくれる方が多いと実感した。学校現場でも地域の方などの応援があるので、学校をさらに開いて、いろいろなつながりの中で、さらに学校として進んでいけるのではないと思う。今、世代交代で若い先生がたくさんいる、この先生方が教育をつくっていくので、ぜひ、厳しい意見も含めて直接学校に頂きたいと思う。

委員 : 長い時間をかけて計画を作ってきて、後は私たちが現場でどういう方法でどう成果を上げていくかだと感じた。計画の中にもある「こどもフェスティバル」は、SAYAKAホールで、毎年11月に開催され、大阪狭山市の園児・児童が元気で頑張っている姿を披露する場だが、保護者は自分の子の出番が終わったら帰り、プログラム後半は空席が目立つという残念な状況である。実際にどうしたらいいのか、市民にどう理解してもらったらいいのかを考えたい。自分は富田林の人間だが、40年近く狭山に通ったので郷土愛を感じる。定年後も狭山に関わっていきたいと思う。いろいろな立場の方のいろいろなジャンルの声を聞かせていただいたので、今後の参考にさせていただきたいと思う。

- 委員 : P T A会長の代わりに参加したところ、大阪狭山市立中学校 P T A代表だったので、責任が重いと感じた。伝えたいこともうまく表現できなかったし、的外れな話をしたと思うが、皆さんの話を聞いて勉強になった。たまたま大阪狭山市に住ませてもらったが、子どもにとっていい市だなと思った。
- 委員 : 体育協会代表として参加した。感謝する。
- 委員 : 素案は本当に素晴らしいと思う。これを実践に移して、子どもの世界がばら色になることを期待している。
プライベートだが、孫が病気になったときに、1人の学校の先生との出会いで、子どもの心を病気から救ってもらった。とても感謝しているし、幸せである。どんな子も教育現場でそういうチャンスに恵まれてほしいと思うとともに、先生方への非常に大きな希望と期待を持っている。これからよろしくお願いします。
- 委員 : 幼稚園 P T A代表で参加し、たくさん勉強させていただいたので、自分の子育てや地域に返すことがたくさん見つかった。年を重ねるごとに、地域の力が子育てに大切だと感じている。大阪狭山は、皆さんが子育てのことを考えて一生懸命されている。そういうバックアップがあって、自分も地域で子育てができていると思うので、大阪狭山市に恩返しできるよう、これからも頑張っていきたいと思う。
- 委員 : 学校に25年勤めた経験を活かしたいと思って応募した。たくさんの方々が、大阪狭山の教育を支えて頑張っているのがよく分かった。感謝する。
- 副委員長 : 長期間の議論・ご審議に感謝する。教育行政と市民の距離感を感じた。それぞれの立場で、ぎりぎりの中で乗り越えてきている部分がある。二学期制、三学期制の問題も、学力低下や完全学校週5日制の中、文科省から授業時数の確保が下りてくる中、大阪狭山市が踏み切ったことがあったと思う。また、高校入試選抜の方法が変わるということで、各市町村、学校現場は早急に対応しなければならない課題の中で、検討を重ねて、大阪狭山市の教育振興基本計画が出来上がった。この市に住むことで、安全・安心な子育てや充実した学校教育が受けられて、豊かな生活ができるという方向性を持って、約束していくものではないかと思う。これを実効性のあるものにするためには、市民と目的・理念を共有して進める必要がある。コミュニティで一人一人が主体になり、これを共

有していき、実現してほしいと思う。よろしくお願いします。

委員長：大阪狭山市は、行政の押しつけがなく、皆さんの活発な議論があって、本当にやりやすかった。また、温かく心の通うまちだと強く思った。いろいろな場面に同じ人しか出てこないという意見があったが、大阪狭山市にこれだけの人がいるということは、スクラムを組めば、素晴らしい市民協働の町ができると思う。今後、大阪狭山市の子どもたちが、しっかり元気に、学びを深めること。大人の教育もしっかりやっていく必要がある。PIAACという国際社会における成人学力調査を見ても、日本には課題がある。親学的なことをきちんとやって、成人能力を高めることも考えてほしい。子どもと大人、全ての市民が、学びを通して高まることを祈念する。そういう意味で、この振興計画が少しでも役に立てばいいと期待している。パブリックコメントは、教育委員会によってほしい。

また、策定にあたり、教育委員会事務局、コンサルタントの方にお礼申し上げます。

今日の議論を事務局に集約していただいて、私と調整して最終的なものにまとめて、教育委員会へ返す形になるが、意見はあるか。

委員：委員長は、学校教育と地域の教育の関わりの度合いは、どの程度がよいというお考えをお持ちか、教えてほしい。

委員長：例えば、地域の人材を育てることを学校教育の中でもやれるということで、学校と地域を重ね合わせていくことが、今後必要と考える。その全体のことを、生涯教育と理解していただきたい。

委員：現状、どこまで踏み込んだらいいのか、お互い主張し合うことが、ある意味でうまくいっていないところではないかと感じている。

委員長：新しい公共が、「重ね合わせる」と使っているが、今後の課題だと思う。ほかに、委員から意見がなければ、事務局にお願いしたい。

事務局：2年間、本当に感謝する。事務局は、委員から頂いた意見をできる限り反映して計画を作ったことをご理解いただきたい。
現在の本市の教育も、他市に誇れる教育だと思うが、今回の計画を実行するために、皆様方に、教育コミュニティづくりに参加していただくことを心からお願いして、あいさつとする。感謝申し上げます。

委員長 ： 新坊副委員長、委員の皆様方、本当に感謝申し上げます。

（一同拍手）

4．閉会

以上